

生徒H： 尾崎知事が高校生の頃には、高知県にはどのような自然環境がありましたか。

知事： 私たちが高校生のころは、今より自然環境は、もしかしたらよくなかったかもしれません。まだ公害から抜け出したような、その自然環境を大切にしようとかっていう考えが出てきはじめて、すぐくらいじゃないかなと思います。

例えば、高知市内の江ノ口川。あの江ノ口川は私が高校生ぐらいの時は、ドブ川だった。魚なんか全然いなかったです。けれど今、あの川をきれいしようって一所懸命やって、鯉とか泳いでいますよね。随分よくなったと思います。

私にとって、馴染み深いのは、鏡川です。私は、父母は幡多のほうなので、この四万十川にもよく来ましたが、子供の頃よく遊んでいたのは鏡川です。今日、久々に水の中にドボドボって入ったけど、ああいうふうに入っていて泳いだり、石を転がしてダム作ったりとか、船を作って浮かべて、石投げて沈めて遊んだりとか、そんなことをたくさんしました。

今のほうが、自然環境を大切にしようという考え方が、ものすごく広がってきているんだと思います。大変だったのは40年代。成長一本やりで自然を犠牲にしてきた時代というのがあって、それに対していろいろ問題が起きて反省をして、自然を大切にしようという流れが出てきて、それが今、ますます大切にしようという考えが出てきているのだと思います。これは大切にしていきたいですね。

生徒I： 高知の鯉というのは、とても魅力的だと思います。そういう魅力的なものを外に売り出そうという、地産外商の取り組みは大変いいと思います。

(産業振興計画パンフレットの)3ページ目にある商品の磨き上げというものなんですけど、当然、商品を作るうえで第一次産業というのは、手を入れる部分なんですけど、その他にも磨き上げるというのは、良い商品を作ろうと思ったら、その第一次産業をつくる環境も良くしようということですか？

知事： そうでしょうね。

生徒I： じゃあ、今は環境についてどのようなことを考えていますか。

知事： なぜ高知の魚がおいしいか。鯉はなぜ高知の鯉がおいしいか。それは、釣り方が違う。一本釣りだからです。網だと、魚がギュッと押し詰められて、身が焼けちゃったり変形したりして、おいしくなくなりますね。けれど、一本釣りで釣り上げるから、その魚の形が崩れない。それと、魚はたたきつけられてすぐ気絶して割と早くしめられるので、変な話ですけど、苦しんで死ぬとあんまりおいしくなくなるんです。そういうところもあって、その釣り方が違うというのがありますね。

黒潮に近いというのもありますね。もうひとつ、海が豊かというのもあります。特に鯉みたいな回遊性の魚より、もっと沿岸、近いところにいる魚のほうがそうだと思いますけど、海が豊かなのでおいしい魚が捕れます。

何で海が豊かか。川がきれいで豊かだから。なぜ川がきれいで豊かか。森がきれいだから。しっかり間伐をして豊かな森をつくって、そこからいい養分が流れ出して行くことで、それが川をきれいにし、そして川が海を豊かにしていく。

森と川と海。この連携についてわかったのは、宮城県で研究をして、森の間伐をしっかりとすると、宮城の海でとれる牡蠣がおいしくなることが、科学的に証明されたからです。

今、四万十川でも、そういうことを盛んにやろうとしていますよね。間伐をしっかりとやっていく、森を大切にすること。森と海は恋人です。森を大切にすることは、川と海を豊かにしていくことにつながっていきます。

その他にも、四万十川という川自体を大切にしようと、代掻き（しろかき）なんかをやったりする時、濁水を流さないように、愛媛県の人にもご協力いただいたりとか、そういうことをしたりしています。いろんな取り組みをしないといけないと思いますけど、代表的なことを挙げろと言われると、そういうことがありますね。

生徒J： 今、ワールドカップで盛り上がっていますが、知事はサッカーを観ますか？ また、がんばっている選手たちをどう思いますか。

知事： サッカーは観ます。私は、あの日本代表はすごくえらいと思う。つらかったと思いますよ。あのワールドカップに出る前、韓国にも、他のところにも負けました。岡田監督も選手も、ものすごく批判されていましたよね。だけど、それを乗り越えてしっかりと結果を出した。立派なことだと思うし、拍手喝采ですよ。やっぱり本当の強さというのは、ああいうもんだなと思います。

生徒K： よく怒られることが多いと言っていたんですけど、そういう時は、ショボンってなったりしないんですか。

知事： それは決して嬉しくはないですね。嬉しくはない。ですけど、それを聞いて、今やっていることを直し、より良いものやっつけていこうとすることが私の仕事なので、そこでしょげてクシュンとなったらいけませんね。怒られたことに対して、どうしていいかということ、次の手を考えることを常にやるようになります。だんだん慣れてくるというか、図太くなってきます。

とにかく、怒られたことに対して、それで改善しないといけない場合と、そうじゃない場合があると思っていますけど、多くの場合は改善しないといけない場合が多い

です。その改善策をどうやってやっていくかということを、考えるようにします。